

ヒトパピローマウイルス感染症ワクチン接種説明書

1 子宮頸がんが発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）について

子宮頸がんは、若い世代に多いがんで、20～30代で急増しています。ほとんどが発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因となって発症します。発がん性HPVは特別な人だけが感染するのではなく、だれでも感染するありふれたウイルスですが、感染したからといって必ずがんになるわけではなく、子宮頸がんになるのは感染した人のうちの1%未満であると考えられています。発がん性HPVには、いくつかタイプがありますが、中でもHPV16型、18型は子宮頸がんによくみつかるといわれるタイプです。

2 HPVワクチンの効果・効能について

HPVワクチンには、「サーバリックス」、「ガーダシル」、「シルガード9」の3種類があります。

HPVは子宮頸がんなどの原因となるHPV16型、18型などの「高リスク型」と尖圭コンジローマなどの原因となるHPV6型、11型などの「低リスク型」に分類されています。サーバリックス、ガーダシル及びシルガード9のいずれについても、HPV16型、18型の「高リスク型」に起因する子宮頸がんの50～70%を予防する効果が認められており、感染予防効果は12年維持されることが分かっています。

ただし、すでに発がん性HPVに感染している人に対して、ウイルスを排除したり、発症している子宮頸がんや前がん病変（がんになる前の異常な細胞）の進行を遅らせたり、治療することはできません。

3 対象者及び接種回数・方法

● 無料対象年齢：12歳となる日の属する年度の初日から16歳となる日の属する年度の末日までの間にある女性

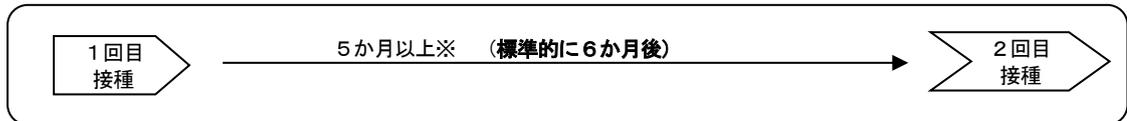
発がん性HPVに感染する可能性が低い10代前半にHPVワクチンを接種することで、子宮頸がんの発症をより効果的に予防できます。

※平成9年4月2日から平成21年4月1日生まれの女性で、令和4年4月1日から令和7年3月31日までに1回でも接種をした方は、令和8年3月31日まで不足している回数を公費（無料）で受けることができます。

● 接種スケジュール

シルガード9（9価HPVワクチン：HPV6型、11型、16型、18型、31型、33型、45型、52型、58型）

① 15歳未満で開始の場合



※5か月未満で接種した場合は、3回目の接種が必要になります。

② 15歳以上で開始の場合



サーバリックス（2価HPVワクチン：HPV16型、18型）



ガーダシル（4価HPVワクチン：HPV6型、11型、16型、18型）



【注意】2価又は4価で接種を開始した場合、残りの回数分を9価へ切り替えて接種することは可能ですが、9価から2価又は4価へ切り替えることはできません。また、2価から9価へ切り替える場合の接種間隔は9価の接種間隔が適用されますのでご注意ください。

4 HPVワクチンの主な副反応

HPVワクチンを接種した後に、注射した部分が腫れたり痛んだりすることがあります。このような痛みや腫れは、体内でウイルス感染に対して防御する仕組みが働くためにおこりますが、通常数日程度で治ります。接種後1週間は症状に注意し、強い痛みがある場合や痛みが長く続いている場合など、気になる症状があるときは医師にご相談ください。

その他、主な副反応として、痛み、赤み、腫れ、胃腸症状、頭痛、筋肉痛、注射部位のしこり、発熱、疲労感等があります。

す。また、失神・血管迷走神経反射（過度の緊張や痛みに伴う動機、気を失う、息苦しい、息切れなど）を起こすことがあります。

重い副反応としては、まれに、アナフィラキシー様症状（血管浮腫・じんましん・呼吸困難など）があらわれることがあります。

5 予防接種健康被害救済制度について

定期の予防接種により重篤な健康被害が発生した場合には、予防接種法の規定により、発生した健康被害の救済として医療費や医療手当などの給付を受けることができます。

6 接種前の注意

予防接種を受けることができない方

- ① 明らかに発熱をしている方（通常 37.5℃以上）
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ 子宮頸がん予防ワクチンの成分（詳しくは医師にお尋ねください）によって過敏症（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む）をおこしたことがある方
- ④ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方

予防接種を受ける際に医師とよく相談しなくてはならない方

以下に該当すると思われる人は、かかりつけ医がいる場合には必ず前もって受診し、予防接種を受けられるかどうか判断してもらい、かかりつけ医のところ以外で接種する場合は診断書または意見書をもってから予防接種に行きましょう。

- ① 血小板が少ない方や出血しやすい方
- ② 心臓血管系の病気、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などの基礎疾患のある方
- ③ 過去に予防接種で、接種後 2 日以内に発熱のみられた方
- ④ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ⑤ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある方、もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ⑥ 妊娠あるいは妊娠している可能性のある方

7 接種当日の注意

予防接種を受けに行く前に

- ① 当日は朝から体温を測り、子どもの状態をよく観察し、ふだんと変わったところのないことを確認してください。予防接種を受ける予定でも、体調が悪と思ったら医師に相談の上、接種できるかどうかを判断してもらいましょう。
 - ② 受ける予定の予防接種についての説明をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことは接種を受ける前に医師に質問しましょう。
 - ③ 予防接種予診票（接種券）は子どもを診て接種する医師への大切な情報です。責任をもって記入するようにしましょう。
 - ④ 予防接種を受ける子どもの日ごろの状態をよく知っている保護者の方が連れていきましょう。
- なお、予防接種の効果や副反応などについて理解した上で、接種に同意したときに限り、接種が行われます。

8 接種後の注意

予防接種を受けた後の注意事項

- ① 予防接種後に、重いアレルギー症状が起こることがあるので、接種後はすぐに帰宅せず、少なくとも 30 分間は安静にしてください。
- ② 接種後は、接種部位を清潔に保ちましょう。
- ③ 接種後丸 1 日は、過度な運動を控えましょう。
- ④ 接種当日の入浴は問題ありません。

違う種類のワクチンを接種する場合の間隔

※令和 2 年 10 月 1 日より施行

- ① 注射生ワクチン（BCG、麻しん、風しん、水痘など）の接種をした後に注射生ワクチンを接種する場合は 27 日以上経過すると受けることができます。
- ② 注射生ワクチンを接種した後に経口生ワクチン（ロタ）及び不活化ワクチン（ジフテリア、B 型肝炎、ヒブ、小児の肺炎球菌、日本脳炎、インフルエンザなど）を接種する場合の接種間隔の制限はありません。
- ③ 経口生ワクチン、不活化ワクチン接種をした後に、異なるワクチン（注射生、経口生、不活化）を接種する場合の接種間隔の制限はありません。

ワクチンを接種した後も、全ての発がん性 HPV による病変が防げるわけではないので、早期発見するために子宮頸がん検診の受診が必要です。

20 歳を過ぎたら定期的な子宮頸がん検診を受けましょう。

この予防接種は盛岡市に住民票のある方が対象です。無料対象年齢を過ぎると有料になります。

〈担当〉 〒020-0884 盛岡市神明町 3-29 盛岡市保健所 指導予防課 予防接種担当 TEL 019-603-8307